



## 川の水のよごれぐあい<sup>かわ みず</sup>がわかる「生物指標」<sup>せいぶつしひょう</sup>って何<sup>なん</sup>なの

### 水<sup>みず</sup>のよごれぐあいを、生き物<sup>いきもの</sup>を目印<sup>めじるし</sup>に、表<sup>あらわ</sup>す

同じ川<sup>おな かわ</sup>でも、水<sup>みず</sup>がきれいな場所<sup>ばしょ</sup>、よごれている場所<sup>ばしょ</sup>で、すんでいる生き物<sup>いきもの</sup>がちがってきます。水<sup>みず</sup>がよごれていても平気<sup>へいき</sup>で生きられる生物<sup>せいぶつ</sup>と、そうではないもの<sup>いもの</sup>がいるからです。

そこで、各地<sup>かくち</sup>で、川<sup>かわ</sup>の水<sup>みず</sup>のよごれぐあいの度合<sup>どあ</sup>いをいくつか<sup>いくつ</sup>に分け<sup>わ</sup>け、それぞれ、そこにすんでいる生き物<sup>いきもの</sup>の種類<sup>しゅるい</sup>を調査<sup>ちようさ</sup>、分類<sup>ぶんるい</sup>する方法<sup>ほうほう</sup>がかんがえられました。その結果<sup>けっか</sup>、どんな生き物<sup>いもの</sup>がすんでいるかを調べれば、水<sup>みず</sup>のよごれぐあいもわかるようになりました。この、水<sup>みず</sup>のよごれぐあいを判定<sup>はんてい</sup>するのに、役立つ目印<sup>やくだ</sup>になる生き物<sup>めじるし</sup>を、「指標生物<sup>せいぶつしひょう</sup>」といいます。また、どんな種類<sup>しゅるい</sup>の生物<sup>せいぶつ</sup>がいるかで判断<sup>はんだん</sup>することを、生物指標<sup>せいぶつしひょう</sup>といいます。

### 水<sup>みず</sup>がきれいな所<sup>ところ</sup>の指標生物<sup>しひょうせいぶつ</sup>は

たとえば、水<sup>みず</sup>のきれいな所<sup>ところ</sup>にしかすめない、水生<sup>すいせい</sup>こん虫<sup>ちゅう</sup>のトビケラやカゲロウの幼虫<sup>ようちゅう</sup>、貝<sup>かい</sup>ではカワナ、エビの仲間<sup>なかま</sup>が見つかり、セキショウモやバイカモなどの水草<sup>みずくさ</sup>が生えていれば、そこは大変水<sup>たいへんみず</sup>がきれいであるといえます。これらの生き物<sup>いきもの</sup>は、どれも環境<sup>かんきやうちやう</sup>庁<sup>はつびやう</sup>が発表<sup>はつぱう</sup>した指標生物<sup>しひょうせいぶつ</sup>になっているものです。

### 水<sup>みず</sup>のよごれがひどくなると、すんでいる生き物<sup>いきもの</sup>の種類<sup>しゅるい</sup>が減<sup>へ</sup>る

トビケラやカゲロウの幼虫<sup>ようちゅう</sup>は見つからず、シオカラトンボのヤゴや、茶色<sup>ちやいろ</sup>のユスリカの幼虫<sup>ようちゅう</sup>、ヒメタニシやドブガイ、アメリカザリガニなどが目立<sup>めだ</sup>つなら、生物指標<sup>せいぶつしひょう</sup>から、かなりよごれた川<sup>かわ</sup>の水<sup>みず</sup>であることがわかります。これらの生き物<sup>いきもの</sup>は、よごれた水<sup>みず</sup>のどろの中<sup>なか</sup>でも、平気<sup>へいき</sup>でくらす仲間<sup>なかま</sup>です。

さらによごれた、下水<sup>げすい</sup>やどぶ川<sup>かわ</sup>では、水草<sup>みずくさ</sup>のかわりに白<sup>しろ</sup>い水綿<sup>みずわた</sup>が川<sup>かわ</sup>べりにつき、赤<sup>あか</sup>い色のユスリカの幼虫<sup>ようちゅう</sup>やイトミミズしか見<sup>み</sup>られなくなります。(監修・安部 義孝)

